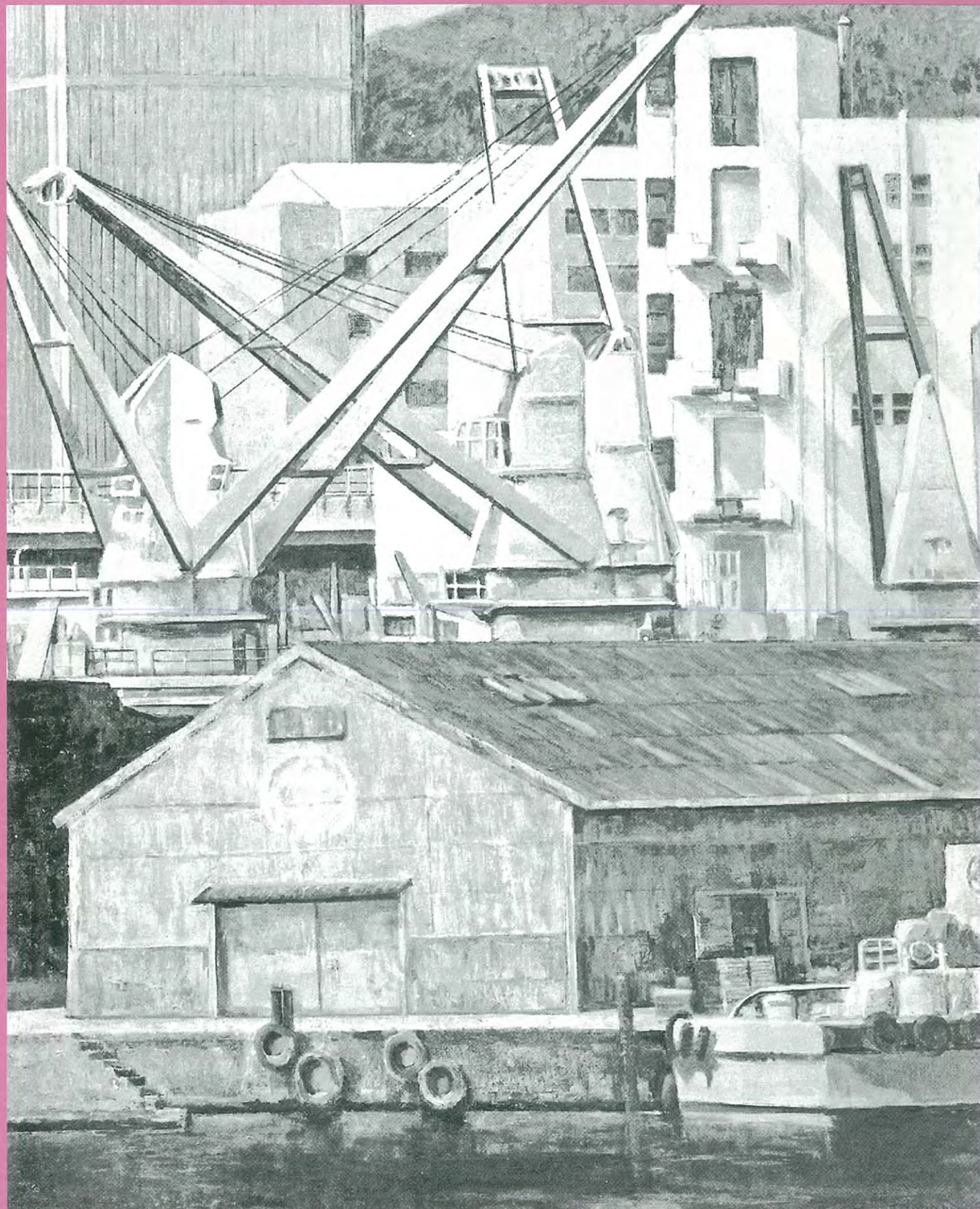


# ゆり

瀬戸内市文化協会  
平成28年2月20日発行  
第12号



第74回創元展(2015) 出品作品

荷揚げあと 山田 侃

## 地域伝統文化の紹介

### おかやま民俗芸能フェスティバル

おかやま民俗芸能フェスティバルが11月7日(土)瀬戸内市中央公民館で開かれました。県内各地に伝わる民俗芸能を広く県民に提供すること、子どもたちを中心とした活動を盛りあげて、後継者の育成をはかりたいといったねらいを持って行われたものです。唐子踊、備中たかはし松山踊り、日生甚九郎太鼓、吉備神楽等7団体、各地の芸能保存会が中心で、子どもたちを巻き込み、伝承に努力している姿がよく伝わってきました。

今回、糸あやつり人形劇団「星の子きらり」も出演しました。中央公民館のホールで行う人形劇です。人形劇の演目は、竹久夢二の子どもの頃を描いた「泣きむし茂次郎」です。「泣きむし茂次郎」は、中学生が中心で演じてきましたが、今回は小学生が、初めて演じました。短時間での舞台づくりで心配しましたが、子どもたちはよくがんばり、団員みなさんの工夫と援助により無事終えることができました。

星の子きらり (西浦 千万太)



人形を準備して



舞台裏のようす



上演中の舞台



発表後にインタビューを受けて

## 会員募集

「瀬戸内市文化協会」の会員を募集しています。みんなで瀬戸内市の文化を育てていきましょう。

### ◎お問い合わせは

瀬戸内市教育委員会社会教育課  
(34-5604) へお願いします。

### ◎お申し込みは

市社会教育課 (34-5604) 牛窓町公民館 (34-5663)  
中央公民館 (22-3761) 長船町公民館 (26-2501)  
へご連絡下さい。



## 会員の受賞・入選

改組新第2回日展入選  
奥田利勝(洋画)

表紙 洋画 山田 侃  
現在  
一般社団法人創元会会員  
運営委員 審査員  
岡山日展会員  
岡山県美術家協会会員

## 編集後記

本号では、森陶岳氏の巨大窯からの窯出しと、岡山城主宇喜多秀家の父・直家が生まれたとされる市内豊原にある砥石城について特集しました。本年度は文化協会の事業として、山口県防府市の毛利屋敷等の研修視察を実施したところ、27名の参加がありました。

## 平成27年度瀬戸内市文化協会役員

- |      |        |       |
|------|--------|-------|
| 顧問   | 森 陶岳   | 岡村三平  |
| 参与   | 西浦千万太  | 奥田桂峰  |
| 会長   | 黒井千左   | 岡崎吉郎  |
| 副会長  | 清水 徹   |       |
| 事務局長 | 三上澄明   | 小林直明  |
| 監事   | 松川広己   |       |
| 常任理事 | 森崎昭生   | 奥田悦代  |
|      | (清水 徹) | 立岡隆子  |
|      | (三上澄明) | 藤間善清  |
|      | 大倉順恵   | 山下皓与  |
|      | 奥田利勝   | 坂手得二  |
|      | 岡本恭子   | 稲荷 作  |
|      | 上森豊玉   | 小林翠玉  |
|      | 刈屋長子   | 四十塚正子 |
|      | 池畑富美子  | 横山好美  |
|      | 松尾俊介   | 野崎 泉  |
|      | 嶋村英範   | 馬場初根  |

理事 95名





横焚き最終日



火入れ式

平成元年新大窯（全長85m）に着工以来、多くの人々のお力添えをいただき、27年の間、築炉作業・作品制作・窯詰作業・窯焚き作業・窯出し作業等々無事進めて参ることができました。お陰様で、この度その成果を確認することができました。その成果の中で、一番にあるのは新大窯に火が入り、特性をもつ焼物となり、そのサンプルを得ることができました。そして室町時代の大窯で焼かれた焼物のサンプル、この二種の焼物を解析した結果、同質・同量の数値で符合したことです。また、その他、これまでの窯で経験したことのない新たな発見がありました。反面、反省点も多々あり、この新大窯の実験は画期的な成果が得られたものと考え、感謝しています。今後、この成果を重く受け止めて、焼物のあり方、仕事の方向性を考えていかなければなりません。その大きな重い課題に向かい、真剣に真摯な態度で取り組んで参りたいと決意を新たにしております。

平成乙未（森 陶岳）

《森 陶岳氏のコメント》



五石甕 窯出し作業



7月27日 初窯出し

備前焼巨大窯から窯出し

— 備前焼作家 森 陶岳氏 —

瀬戸内市文化協会顧問でもあり、備前焼の岡山県無形文化財保持者 森陶岳氏が、室町末期から安土桃山期の古備前に迫ろうと、瀬戸内市牛窓町長浜に築いた、「新大窯」（全長85m、幅6m）が2008年7月に完成。2015年1月に火入れをして、最高1200度まで上昇させ、弟子6人を中心に40人のスタッフが昼夜を問わず関わり、107日におたつて続いた窯焚きが4月20日終了した。自然冷却し、3ヶ月後の7月27日に窯出しが始まり、大甕97点や大小の壺など2000点が窯出しされた。窯出しの結果、新大窯と五石甕による複雑な焼成環境が、古備前でも見たことのない、独特の窯変を生じた作品ができている。

資料提供（瀬戸内市教育委員会）



五石甕



窯焚き用割り木



窯詰め作業



五石甕 窯詰め作業



# 瀬戸内市の歴史探訪

— 戦国大名 宇喜多氏をめぐるドラマの舞台 —



宇喜多能家画像  
(県立博物館所蔵・写真提供)



宇喜多直家木像  
(光珍寺旧蔵・写真提供)



宇喜多秀家画像  
(岡山城所蔵・写真提供)

## 砥石城跡

### 《宇喜多直家生誕の地》

邑久町豊原の砥石城は、戦国時代につくられた城です。備前国を支配下に収めて戦国大名となった宇喜多直家が生まれたところと伝わっています。築城の正確な年代は不明ですが、『備前軍記』によると、直家の祖父である宇喜多能家が大永3(1523)年ごろから砥石城で隠居生活を送っていたとされています。同書には、天文3(1534)年、能家が島村豊後守に急襲されて自害し、当時6歳の直家とその父・興家はかろうじて逃げのびたと書かれています。

砥石城は、どん底の境遇からのちに備前国を統一し、戦国大名に成長する宇喜多直家をめぐるドラマの舞台となっていました。

### 《砥石城は「連郭式山城」》

千町平野の南に位置する砥石城は、山頂に細長い平坦部を造成して本丸の主郭としています。本丸の標高は101.1m。主郭以外にも地表を平坦に削って造成した曲輪(郭)を何

段も配備し、防衛を固めています。

一方、本丸から谷を隔てて西200mの丘陵に砥石城の出丸(または出城)がつくられています。標高107.2mの頂部を出丸主郭とし、やはり主郭の北側などに曲輪を配備しています。このように、砥石城は、砥石山の山頂に築かれた本丸と、その西側の出丸によって形成されています。このような形式をもち、山頂に築かれた城を「連郭式山城」と呼んでいます。



砥石城本丸跡の石垣(南西側)

『備前軍記』によれば、砥石城の主、宇喜多能家が島村氏に襲われて自害したとき、子の興家と孫の直家は、鞆の浦(福山市)に逃れた後、備前福岡の豪商阿部氏のもとで過ごしました。ここで興家は亡くなり、少年期の直家は笠加に居た伯母の尼に養われたと言います。その後、成長した直家は、備前国を支配していた浦上氏のもとで活躍して勢力を拡大し、ついには浦上氏を凌駕するまでにになりました。備前国を支配下に収めた直家は、岡山城を築き、戦国大名と呼ばれるほどになりました。

### 《宇喜多能家・興家・直家》

西の大名毛利氏と、東から迫ってくる織田信長軍の間で難しい駆け引きをしながら、最終的に織田方の豊臣秀吉に味方をして備前の地を守りました。

### 《戦国の貴公子》宇喜多秀家

直家の息子・秀家は、天下統一を果たした豊臣秀吉にかわいがられ、豊臣政権のもとで五大老の一人となるまでに出世しました。しかし、慶長5(1600)年の関ヶ原合戦で豊臣家への忠義から西軍につき、徳川家康率いる東軍に敗れ、最終的に八丈島(東京都八丈町)へ流されました。秀家が生涯を終えた八丈島では、秀家を顕彰する動きが近年活発になっており、岡山との交流も盛んになっています。

瀬戸内市教育委員会社会教育課

(村上 岳)



砥石城跡(南東から)

# 各部の活動紹介

## 講習会に参加して

### 夢ニフォークダンスサークル

フォークダンスとは世界の民族舞踊です。練習日にはアメリカ・ブルガリア・イングランド等々・・・世界旅行?をしながら楽しく元気に踊っています。去る10月4日(日)講師に日本フォークダンス連盟公認指導者の蔵元比呂美先生をお招きしての講習会が開かれました。講習曲はヤン・トウ木の「ポロネーズ ウロチステイ」ポーランドの踊りです。ポーランド独特のポロネーズ・ステップを踏み、参加者同士が手をつなぎ優雅に行進しながら隊形を作っていきます。踊る人も観る人も共に楽しめる曲だと思えます。一度の講習では完全に踊ることにはできませんが、素晴らしい講師のコールとステップに魅了され、参加者の皆さんが熱心に受講しました。和気あいあいと有意義な3時間でした。



練習風景

(小森久美子)

## 参加することの意味

### 宗(そう)パッチ

今から5年ほど前、「私の布を使って、みんながパッチワークを始めよう!」と、そんな友人のかけ声と指導で私たちの活動が始まりました。それでも縫うことを得意とする者もいれば、針などほとんど持ったこともなかった者もあり、月2回、福田コミュニティで、友人の指導を受けながらこつこつと作品を仕上げました。

活動を始めて1年くらいたった時、自分たちにはまだまだそんなつもりはなかったのですが、地区の文化祭に出展することになりました。みんな、声に出しては言わないけれど、「参加することに意味がある。」とそんな気持ちでその後も文化祭への出展を続けています。今年度から文化協会に入会させていただきます。また、「つなぐ展」の出展にも声をかけていただき、出展する作品について意見を言い合うようになり、新しいことへの挑戦に、頑張り始めたメンバーの姿にも、少しずつ変化が見られるようになりました。



できあがった作品

(赤木英子)

## 「演者も楽しく」

### 糸操り人形劇団びっくりばこ

瀬戸内市の糸操り人形劇団としては、最も新しく3年前に結成された劇団です。劇団名は何か飛び出すか『ワクワク』するような劇団にしようかと「びっくりばこ」と名付けています。しかしまだ未熟な技術を度胸でカバーしている段階です。人形制作も次第に熱が入り楽しさが人形の表情に現れ始めています。今年度は文化協会より助成をいただき自前の劇団幕を制作することができました。これを持って無謀にも昨年夏には、岡山シンフォニーホール和室で公演を敢行し大勢のお客様に楽しく観ていただくことができました。昨年の喜之助フェスティバルでは、岡山弁で「ももたろう」を、そして公募のファッションを人形に着せることもチャレンジしました。

びっくりばこでは、糸操りに興味をお持ちの方の参加をお待ちしております。年齢制限などありません。練習を覗きにきてください。衣装作成、映像、声優、音楽、脚本制作などに特技をお持ちの方歓迎します。

(藤原泰之)



寿限無の一場面



# 瀬戸内市の文化祭風景

## 邑久会場

10月24日(土)～25日(日)

瀬戸内市中央公民館では芸術・文化の秋らしく、岡山フィルハーモニック管弦楽団による弦楽四重奏とテノール歌手征木和敬氏、ソプラノ歌手川崎泰子氏の歌で開幕しました。午後からは、歌や踊り、ダンスなどのステージ発表があり、日頃の活動成果を十分に発揮され、演技者と観客が一体となって大盛況でした。また、市民創作展では絵画、写真など各団体が1年間の成果を二日間にもわたり展示発表され、大勢のお客さんが会場に訪れました。



岡山フィルハーモニックの演奏

## 長船会場

11月7日(土)～8日(日)

長船町公民館において、文化祭が開催されました。「みんなで創り上げよう文化祭」のスローガンのもとで、公民館活動各グループ、クラブの皆さんの創作展及びステージ部での発表があり、途中から市長さんの飛び入り等もあって、会場全体が大変盛り上がりしました。全国的に有名になった菊花展も開催されており、多くの参加者で楽しい文化祭が無事終了できたこと、実行委員会として厚くお礼を申し上げます。



元気いっぱいのステージ

## 牛窓会場

10月17日(土)～18日(日)

牛窓町公民館と市立美術館ギャラリーSで公民館グループを中心に、12分野の作品を展示しました。18日のステージ発表は、13団体が日頃の練習の成果を十分に発揮され、観客の皆さんを魅了しておりました。

なお、関連行事として、17日には「健康チェック」・「囲碁大会」・「スポーツ吹矢体験会」18日には「前結び着付け体験会」が開催され、また、午前10時から大講堂において、牛窓いきいき学級の講演会が元全日空国際線パイロット山下文忠氏を講師に迎えて、演題「紺碧の大空に魅せられた半生」と題して約2時間の予定で実施されました。



ステージ発表

## 花とふれあう子どもたち

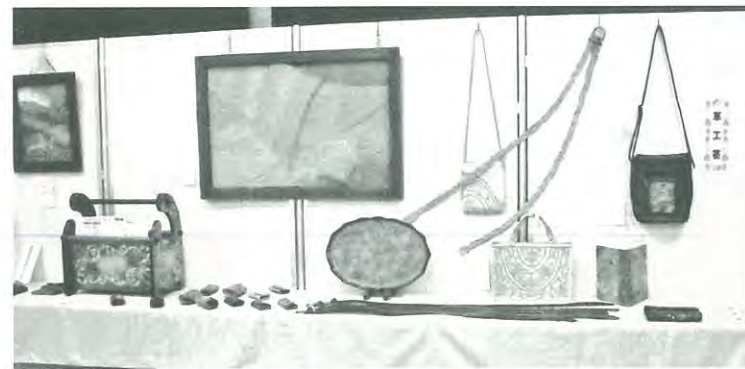
専敬流長船 ほーたるの会

私たちのグループは毎月1回生け花研究会を開いています。季節の花を各々の想いで生け、話し合いながら勉強しています。先日、文化祭の体験コーナーとして子どもの生け花体験を開きました。子どもたちはそれぞれスタンプリーの紙を持ってやってきます。花とふれあう顔は真剣そのものです。完成した自信作の前では、得意そうな顔、うれしそうなお花、花にほほ寄せる顔など喜びがあふれています。「お花は、お母さんや家族にプレゼントするよ。」「家の玄関に飾るよ。」「おじいちゃんの病院に持っていくよ。」「など、子どもたちの想いはいっぱい広がります。



子ども生け花体験

今年から文化協会に入会させていただいたばかりの革工芸クラブは、葛原先生ご指導のもと毎月2回(第2と第4の水曜日)、革でバッグ・額・ベルト・マガジンラック・トレイ・財布等々大小さまざまな作品を、みんなで切磋琢磨しながら楽しく作っています。同じ革、同じ型紙で作っても、刻印の打ち方、色の付け方、造形の仕方でも同じ物はありません。まさにオンラインです。現在は、28年2月に瀬戸内市立美術館ギャラリーSで開催される「なく展」に向けて、同じ型紙でワインラックをみんなで作っています。これから先生に教えていただきながら、みんないろいろな作品を作っていきたいと思っています。(岡 恵美子)



文化祭の出品作品

## オンラインワンに魅せられて

革工芸

## 「食」で瀬戸内市を盛りあげよう

せとうち市食文化研究会

地産地消・食育・郷土料理の継承を柱に発足して3年目を迎えました。各種イベントへの参加や料理教室・講演会等の開催、学童保育の子どもたちとの料理作り等々を通して、瀬戸内市を食で盛り上げていきます。

昨年は夢二生誕130年を記念して、「夢二が愛した郷土の食レシピ集」を作成しました。それがきっかけで県のアンテナショップ「とっとりおかやま新橋館」での「見たい食べたい! 岡山・瀬戸内市ええとこフェア」

に参加することができました。しっかりと瀬戸内市の美味しい物をアピールすることができました。まだまだメンバーを募集しています。私たちと一緒に瀬戸内市を食で盛りあげませんか。(馬場 初根)



「ええとこフェア」に参加のメンバー